

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（設問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する数字を選んでください。

①あてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない

設問 1 シラバスに沿って授業を行えた。

①28 (85%) ②4 (12%) ③1 (3%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①26 (79%) ②6 (18%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 1 (3%)

設問 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①16 (48%) ②17 (52%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①24 (73%) ②9 (27%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①25 (76%) ②6 (18%) ③2 (6%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①24 (73%) ②8 (24%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 1 (3%)

設問 7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確認しながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①29 (88%) ②4 (12%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①25 (76%) ②8 (24%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①22 (67%) ②8 (24%) ③1 (3%) ④0 (0%) 未回答 2 (6%)

設問 10 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①12 (36%) ②21 (64%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

B（設問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：4（12%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：21（64%）
- ③他大学の FD 活動の視察：8（24%）
- ④その他：12（36%）

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：22（67%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：27（82%）
- ③他大学の FD 活動の視察：17（52%）
- ④その他：10（30%）

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、回答：14 クラス（順不同）

- [1] 授業の一環として行っている多読活動に、クイズの要素を取り入れ、学生が自分で選んだ本の理解度チェックができるようにし、またそれを評価の根拠の一つとした。
- [2] 前は音声データが利用できない教材だったので今回は、音節データが使える教材に変更し、学生も事前に聞けるようにした。少し内容が難しかったが、単語の quick response をすることでパラレルリーディングもできていたようだ。
- [3] 学生のニーズ、問題点をより把握できる授業体制改善に努めた。
- [4] テキストに載っている絵を二人で説明し合う時間を設けた。
- [5] 英会話の要素をより多く取り入れ、英語による「表現力」を高める練習を新たに取り入れた。
- [6] 学生生活や将来に参考になる、役立つ内容を考えて授業を作るようになりました。英語が苦手の学生でも少しでも自信を持って自分の能力を使うように進めようと思いました。
- [7] 宮崎ーバングラデシュモデルの IT エンジニアの 13 人との交流を行った。学生が異文化を理解する及び実際に外国人とのコミュニケーションをできる取り組みしました。
- [8] 一層の詳細な説明、特に文法面、をおこなった。
- [9] 昨年の授業評価では、各自が専門分野で興味のある記事を検索し、紹介し合うというアクティビティが有意義に感じられたということだった。今期はその回数を増やしたが、今期の学生にとっては負担が大きかったようである。
- [10] 英語を学ぶ意欲をさらに駆り立てるため、米国で実践されているプロジェクト型学習の研修を受け、昨年度より充実した授業を設計することができた。特に、ムーンショットの概念を取り入れ、ユニークな提案をする方法をトレーニングすることで、発表内容が興味をそそるものとなり、「この人は何を考え付いたんだろう？」「どうやってこの考えを引き出したんだろう？」という相手の話に対する強い好奇心を引き出すことに成功した。
- [11] 単語クイズの回数を増やして、もうちょっと難しくした。
- [12] 留学生との交流と共同発表を取り組みました。
- [13] より実践的なコミュニケーション力の育成に努めた。
- [14] 学生の集中力を途絶えさせないように、活動の時間を多く取り入れた。

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答： 9 クラス（順不同）

- [1] 語学資料室の多読教材整備がより進んだことと、学生の自律的学習をサポートできるオンラインシステムが加わったことで、学生の英語多読活動をより包括的に支援できるようになった。ぜひ今後も語学資料室を一層充実化し、英語リーディング学習の支援を改善していきたい。
- [2] 今回、リーディング中心になってしまったので、次回は、ライティングにも力を入れていきたい。
- [3] クラスサイズが大きくなり、語学に必要な個々の学生への目配りが、より難しくなった。その点への対応はまだまだ十分とは言えず、今後も検討しなくてはならない。
- [4] クラスの人数は多くてあんまり学生とワンツールの機会はなかったです。
- [5] グループワークの際、単にグループを作って終わりではなく、役割分担の方法などを説明し、それぞれの役割を全員が順番に経験するよう運営方法も指導した。グループワークは教員の目につかないところでトラブルが起こりやすく、グループワークを好む学生よりも嫌う学生の方が多いのが実情であるが、そのようなトラブルを最小限にとどめることができた。
- [6] もっと学生の出席数を把握することと、もうちょっと早く中間テストの結果を発表すること。
- [7] 携帯電話の取り扱いについて、もっと厳しく対応する方がよかったように思う。
- [8] 授業に集中できる環境づくり。評価もできるが、携帯電話の取り扱いについては、もっと学生が遊ばないようにするなどの対策を講じる必要がある。
- [9] 授業の流れをある程度固定し、学生が段取りに沿って自ら行動できるようにした。

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：なし

C（設問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：33（100%） ②いいえ：0（0%） 未回答：0（0%）

設問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する：30（91%）
- ②読んで理解する：31（94%）
- ③自分の考えをまとめて話す：29（88%）
- ④自分の考えを文章にまとめる：25（76%）
- ⑤討論する：16（48%）
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする：24（73%）
- ⑦その他：5（15%）

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 15 クラス（順不同）

- [1] Reading Project による発表後に学生間でフィードバックを実施、多読活動による、読書交流
- [2] 課題で多読をしていますが、一カ月に一度読んだ本の紹介をグループで実施しています。
- [3] 毎回、小テストをしていますが、時間に余裕のある学生には、追加で quiz を出しています。
- [4] 簡単なスクリプト（台本）を用いて、英語によって、自分の気持ちを伝える練習を新たに取り入れた。
- [5] グループ内でのディスカッションの他に、留学生 2 名（ボランティア参加）との交流を有効に取り入れた。
- [6] ペアワークとグループワークで意見交換したりしました。
- [7] 宮崎ーバングラデシュモデルの IT エンジニアの 13 人との交流を行った。学生が異文化を理解する及び実際に外国人とのコミュニケーションをできるの取り組みしました。
- [8] 自分の考えを相手に伝えるだけではなく、相手の情報を引き出すための「質問力」の向上を目指し、グループ発表時は必ず質問をする場を設定しました。
- [9] 意図が確実に伝わる英語を目指すために、精度の高い英語を作るために翻訳者等が実施する方法を教えるようにしている。
- [10] 英会話を中心とした授業のため、ほとんどコミュニケーションの練習と自己評価する機会を与えた。
- [11] 留学生とコミュニケーションを取りながら課題を完成し、共同発表を行った。
- [12] 部分的な内容を提示して、自分でコミュニケーションをとっていく練習。
- [13] 部分的な題材をもとに、パートナーと会話をする。
- [14] グループワークの際、単にグループを作って終わりではなく、役割分担の方法などを説明し、それぞれの役割を全員が順番に経験するよう運営方法も指導した。グループワークは教員の目につかないところでトラブルが起こりやすく、グループワークを好む学生よりも嫌う学生の方が多いのが実情であるが、そのようなトラブルを最小限にとどめることができた。
- [15] ポイントの表現を用いて身近な事柄を説明するタスクは、実践的なコミュニケーション力の育成につながった。

D（設問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：9（27%） ②いいえ：17（52%） 未回答：7（21%）

設問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回：9（100%） ②6～10回：0（0%） ③11～15回：0（0%）

未回答：0（0%）

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化：9（100%） ②政治・経済・産業：3（33%） ③自然環境・フィールド体験：5（56%）

④その他：1（11%）

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 8 クラス

- [1] 自己紹介で、出身地についてしょうかいし、質問を受ける。
- [2] 地域の紹介
- [3] キャンパスを歩いてみて UniversalDesign が実際使っている場面をみたり、改善できる所を考えたりしました。自分の出身地と宮崎の比べなど。
- [4] 自分の出身地などを英語でお話させる。
- [5] 宮崎ーバングラデシュモデルの IT エンジニアの 13 人の交流授業中に地域の紹介などを取り入れました。
- [6] 留学生との交流授業中に地域の紹介を取り入れました。
- [7] 会話の内容に、より身近なものを取り上げた。
- [8] 会話のテーマをより身近なものから取り上げた。

設問 23 問 2 3～2 4 は中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

- ①0%:0 (0%)      ②10%以内:0 (0%)      ③10%～20%:1 (3%)      ④21%～30%:1 (3%)  
 ⑤31%～40%:0 (0%)      ⑥41%～50%:3 (9%)      ⑦51%～60%:1 (3%)      ⑧61%～70%:1 (3%)  
 ⑨71%～80%:10 (30%)      ⑩81%～90%:6 (18%)      ⑪91%～100%:10 (30%)

設問 24 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数回答可）。

- ① 少人数（10 人程度）：5（15%）      ② 双方向（対話・討論）：19（58%）      ③ グループワーク：31（94%）  
 ④ フィールド型：1（3%）      ⑤ メディア活用：17（52%）      ⑥ TA 活用：3（9%）  
 ⑦ その他：3（9%）

設問 25 中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）。

- ① 授業を英語のみで行っている：1（3%）
- ② 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：28（85%）
- ③ 英語のみで板書している：9（27%）
- ④ 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：20（61%）
- ⑤ 英語のみの教材・資料を使用している：13（39%）
- ⑥ 一部英語併記の教材・資料を使用している：20（61%）
- ⑦ 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：18（55%）
- ⑧ 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：22（67%）
- ⑨ 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：28（85%）
- ⑩ 学生間のディスカッションで一部英語を使用している：19（58%）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（設問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する数字を選んでください。

①あてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない

設問 1 シラバスに沿って授業を行えた。

①2 (50%) ②2 (50%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①2 (50%) ②2 (50%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①0 (0%) ②4 (100%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①0 (0%) ②4 (100%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①1 (25%) ②3 (75%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①2 (50%) ②2 (50%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確認しながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①2 (50%) ②2 (50%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①0 (0%) ②2 (50%) ③0 (0%) ④2 (50%) 未回答 0 (0%)

設問 9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①0 (0%) ②4 (100%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 10 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①1 (25%) ②3 (75%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

B（設問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：0（0%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：0（0%）
- ③他大学の FD 活動の視察：4（100%）
- ④その他：0（0%）

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：2（50%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：0（0%）
- ③他大学の FD 活動の視察：2（50%）
- ④その他：0（0%）

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、回答：2 クラス（順不同）

[1] 授業前に学生に本時の目標を設定してもらい、授業後に目標に対する振り返りを課した点。

[2] 授業前に学生に本時の目標を自ら定めてもらい、授業後に目標に対する振り返りを課した点。

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：0 クラス（順不同）

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：なし

C（設問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

- ①はい：4（100%） ②いいえ：0（0%） 未回答：0（0%）

設問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する：2（50%）
- ②読んで理解する：0（0%）
- ③自分の考えをまとめて話す：0（0%）
- ④自分の考えを文章にまとめる：2（50%）
- ⑤討論する：0（50%）
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする：0（0%）
- ⑦その他：2（50%）

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：0 クラス（順不同）

D（設問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」について  
お尋ねします。

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：0（0%） ②いいえ：4（100%） 未回答：0（0%）

**設問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。**

設問 20 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回：0（64%） ②6～10回：0（0%） ③11～15回：0（0%）

未回答：0（0%）

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化：0（0%） ②政治・経済・産業：0（0%） ③自然環境・フィールド体験：0（0%）

④その他：0（0%）

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0 クラス

設問 23 問 2 3～2 4 は中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

①0%:0（0%） ②10%以内:0（0%） ③10%～20%:0（0%） ④21%～30%:0（0%）

⑤31%～40%:0（0%） ⑥41%～50%:0（0%） ⑦51%～60%:0（0%） ⑧61%～70%:0（0%）

⑨71%～80%:2（50%） ⑩81%～90%:0（0%） ⑪91%～100%:2（50%）

設問 24 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数回答可）。

① 少人数（10人程度）：0（0%） ② 双方向（対話・討論）：0（0%） ③ グループワーク：2（50%）

④ フィールド型：2（50%） ⑤ メディア活用：0（0%） ⑥ TA 活用：0（0%）

⑦ その他：2（50%）

設問 25 中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）。

① 授業を英語のみで行っている：0（0%）

② 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：0（0%）

③ 英語のみで板書している：0（0%）

④ 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：0（0%）

⑤ 英語のみの教材・資料を使用している：0（0%）

⑥ 一部英語併記の教材・資料を使用している：0（0%）

⑦ 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0（0%）

⑧ 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0（0%）

⑨ 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：0（0%）

⑩ 学生間のディスカッションで一部英語を使用している：0（0%）



※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（設問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する数字を選んでください。

①あてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない

設問 1 シラバスに沿って授業を行えた。

①4 (100%) ②0 (0%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①2 (50%) ②2 (50%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①3 (75%) ②1 (25%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①2 (50%) ②2 (50%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①1 (25%) ②2 (50%) ③0 (0%) ④1 (25%) 未回答 0 (0%)

設問 6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①3 (75%) ②1 (25%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確認しながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①4 (100%) ②0 (0%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①3 (75%) ②0 (0%) ③1 (25%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①3 (75%) ②1 (25%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 10 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①2 (50%) ②2 (50%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

B（設問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：0（0%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：3（75%）
- ③他大学の FD 活動の視察：1（25%）
- ④その他：1（25%）

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：1（25%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：4（100%）
- ③他大学の FD 活動の視察：1（25%）
- ④その他：0（0%）

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、回答：3 クラス（順不同）

- [1] 授業スピードを緩め、学生の理解度に合わせた
- [2] アクティブラーニングの一環として演習を3回行った。
- [3] メモを取り易いようにスライドのコマ送りに留意した。（速過ぎないように）

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば

書いてください。 回答：1 クラス（順不同）

[1] （評価できる点）

○ワークシートや振り返りシートの活用により、課題に対する学生の思考・判断・表現を促すとともに、記述内容を分析し授業内容の理解度を把握することができた。

○毎回、授業の冒頭で10名程度の学生に1分間スピーチを割り当てたが、回を追うごとに要領を得てスピーチ内容や表現力が向上した。

（反省すべき点）

●速過ぎないようにスライドのコマ送りに留意したが、内容が豊富なため、カットせざるを得ない部分が生じてしまった。内容の精選と重点化が課題となった。

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：なし

C（設問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：3（75%） ②いいえ：1（25%） 未回答：0（0%）

設問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する：1（33%）
- ②読んで理解する：1（33%）
- ③自分の考えをまとめて話す：1（33%）
- ④自分の考えを文章にまとめる：2（67%）
- ⑤討論する：1（33%）
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする：0（0%）
- ⑦その他：0（0%）

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 2 クラス（順不同）

[1] 講義の初回に計 50 ページのプリントを渡し、これを読んで理解の助けになるようにした。

[2] ○講義内容「教員に求められる資質・能力」の中で、コミュニケーション能力の重要性を扱った。

○全員に 1 分間スピーチを体験させ、話す力はもとより聞く力を養うよう努めた。

○集団討論や問題場面を想定したロールプレイングを行い、コミュニケーションのスキルを体験的に習得できるようにした。

D（設問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：2（50%） ②いいえ：2（50%） 未回答：0（0%）

設問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5 回：2（100%） ②6～10 回：0（0%） ③11～15 回：0（0%）  
未回答：0（0%）

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化：0（0%） ②政治・経済・産業：1（50%） ③自然環境・フィールド体験：1（50%）  
④その他：1（50%）

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 0 クラス

設問 23 問 2 3～2 4 は中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

- ①0%:0 (0%)    ②10%以内:1 (25%)    ③10%～20%:1 (25%)    ④21%～30%:0 (0%)  
 ⑤31%～40%:0 (0%)    ⑥41%～50%:0 (0%)    ⑦51%～60%:0 (0%)    ⑧61%～70%:0 (0%)  
 ⑨71%～80%:0 (0%)    ⑩81%～90%:0 (0%)    ⑪91%～100%:2 (50%)

設問 24 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数回答可）。

- ① 少人数（10人程度）：1（25%）    ② 双方向（対話・討論）：3（75%）    ③ グループワーク：1（25%）  
 ④ フィールド型：0（0%）    ⑤ メディア活用：0（0%）    ⑥ TA 活用：1（25%）  
 ⑦ その他：1（25%）

設問 25 中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）。

- ① 授業を英語のみで行っている：0（0%）  
 ② 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：0（0%）  
 ③ 英語のみで板書している：0（0%）  
 ④ 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：3（75%）  
 ⑤ 英語のみの教材・資料を使用している：0（0%）  
 ⑥ 一部英語併記の教材・資料を使用している：2（50%）  
 ⑦ 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0（0%）  
 ⑧ 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0（0%）  
 ⑨ 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：0（0%）  
 ⑩ 学生間のディスカッションで一部英語を使用している：0（0%）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（設問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する数字を選んでください。

①あてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない

設問 1 シラバスに沿って授業を行えた。

①17 (89%) ②2 (11%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①17 (89%) ②2 (11%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

(教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。)

①11 (58%) ②8 (42%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①12 (63%) ②7 (37%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①9 (47%) ②9 (47%) ③1 (6%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

(授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。)

①13 (68%) ②6 (32%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

(発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等)

①15 (79%) ②4 (21%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①6 (32%) ②9 (47%) ③4 (21%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①12 (63%) ②6 (32%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 1 (5%)

設問 10 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①13 (68%) ②6 (32%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

B（設問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：3（16%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：17（89%）
- ③他大学の FD 活動の視察：2（11%）
- ④その他：0（0%）

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：6（32%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：14（74%）
- ③他大学の FD 活動の視察：5（26%）
- ④その他：0（0%）

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、回答：5 クラス（順不同）

- [1] 履修生の理解度に合わせて内容を修正した。
- [2] 事例をもとに、学生間でグループ討議する時間をじっくり設け、発表も行った。
- [3] ルーブリック評価基準を目標達成度をより適切に評価できるよう修正した。
- [4] 本授業を担当する 4 名の教員で全員と学生の出欠状況と学習態度に関する情報交換を行うようにした。欠席が続く学生には早めにフォローを行い、出席日数の不足の学生はいなかった。  
グループワーク、ロールプレイ、映像を使用した講義など、学生の学習意欲を向上させることにつながった取り組みを今年度も継続した。
- [5] アクティブラーニングを極力取り入れて、少人数でのグループワークも行った。

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答：2 クラス（順不同）

- [1] 事例の討議や実験など意欲的に学生が取り組んでいた姿から、学生の興味関心に寄せて、授業を組み立てることができたと考える。  
一方、急遽使用した教室の環境が手狭であり、学生にとってやや我慢を強いたのではないかという懸念がある。また、ボリュームが多かったため、もっと整理することが課題と感じた。
- [2] グループワークによるプレゼンテーションでは、学生同士の評価を取り入れ、その結果を公表することで、ピアレビューにつながった。

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：なし

C（設問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：16（84%） ②いいえ：3（16%） 未回答：0（0%）

設問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する：6（38%）
- ②読んで理解する：4（25%）
- ③自分の考えをまとめて話す：9（56%）
- ④自分の考えを文章にまとめる：12（75%）
- ⑤討論する：8（50%）
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする：10（63%）
- ⑦その他：0（0%）

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 5 クラス（順不同）

- [1] 小学生とコミュニケーションをとる。
- [2] 授業内容の一部について、履修生に予習をさせ、プレゼンテーション形式で発表させた。
- [3] グループ討議や発表時間を設けたが、発言機会を増やすために、相互に話しやすくなるようルールを設定するなど工夫を行った。また、学生間の討議や発表をファシリテートすることでコミュニケーションの在り方の示範となるよう努めた。
- [4] ロールプレイや討論を取り入れて、コミュニケーションの送り手・受け手の双方の役割や立場を体験させている。
- [5] 1年生の前期に行った、地域理解実習で書いたレポートを、論文の書き方の講義を受けてから、リライトさせた。その結果、多くの学生のレポートの質が向上した。

D（設問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：11（58%） ②いいえ：8（42%） 未回答：0（0%）

設問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回：9（82%） ②6～10回：2（18%） ③11～15回：0（0%）  
未回答：0（0%）

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化：4（36%） ②政治・経済・産業：6（55%） ③自然環境・フィールド体験：8（73%）  
④その他：1（9%）

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 2 クラス

- [1] 宮崎県の医療が抱える課題とその対策を新聞、県庁のホームページなど社会情勢を取り入れてグループワークで検討させ、全体ディスカッションにつなげている。
- [2] 延岡、日向企業を訪問したキャリア形成の授業とコラボレートして、そのレポートを作成してグループで発表するなどの授業を取り入れた。

設問 23 問 2 3～2 4 は中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

- ①0%:1 (5%)      ②10%以内:2 (11%)      ③10%～20%:2 (11%)      ④21%～30%:1 (5%)  
 ⑤31%～40%:1 (5%)      ⑥41%～50%:0 (0%)      ⑦51%～60%:3 (16%)      ⑧61%～70%:1 (5%)  
 ⑨71%～80%:2 (11%)      ⑩81%～90%:1 (5%)      ⑪91%～100%:5 (26%)

設問 24 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数回答可）。

- ① 少人数（10 人程度）：10（56%）      ② 双方向（対話・討論）：9（50%）      ③ グループワーク：7（39%）  
 ④ フィールド型：6（33%）      ⑤ メディア活用：6（33%）      ⑥ TA 活用：0（0%）  
 ⑦ その他：2（11%）

設問 25 中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）。

- ① 授業を英語のみで行っている：0（0%）  
 ② 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：1（5%）  
 ③ 英語のみで板書している：0（0%）  
 ④ 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：3（16%）  
 ⑤ 英語のみの教材・資料を使用している：0（0%）  
 ⑥ 一部英語併記の教材・資料を使用している：2（11%）  
 ⑦ 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0（0%）  
 ⑧ 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0（0%）  
 ⑨ 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：0（0%）  
 ⑩ 学生間のディスカッションで一部英語を使用している：0（0%）



※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（設問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する数字を選んでください。

①あてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない

設問 1 シラバスに沿って授業を行えた。

①13 (76%) ②4 (24%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①13 (76%) ②4 (24%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①9 (53%) ②8 (47%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①9 (53%) ②8 (47%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①9 (53%) ②8 (47%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①13 (76%) ②4 (24%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確認しながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①13 (76%) ②4 (24%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①8 (47%) ②6 (35%) ③3 (18%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①9 (53%) ②8 (47%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 10 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①11 (65%) ②6 (35%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

B（設問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：3（18%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：14（82%）
- ③他大学の FD 活動の視察：3（18%）
- ④その他：6（35%）

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：5（29%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：14（82%）
- ③他大学の FD 活動の視察：2（12%）
- ④その他：5（29%）

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、回答： 5 クラス（順不同）

- [1] 講義内容・説明をいっそうわかりやすいものにし、現代との比較を示した。学生の調査やレポート作成に必要な文献の紹介や用意に留意し、今年度は教科書に対応した参考書の使用を課した。グループ内での自由な討論ができるように配慮した。グループの人数をできるだけ4名になるように配慮し、欠席者が出た場合は一部のグループを再編成した。
- [2] シラバスの解説。グループディスカッションの頻度増。
- [3] 明確にこの点を、というものは難しいが、これまでの授業や今年の受講生の様子に合わせて、随時工夫するように心がけた。
- [4] 昨年の授業レポートを参考にしながら、適宜改善を加えながら授業を行った。
- [5] レポート課題を明確にして評価をわかりやすい評価となるようにこころがけた。

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答： 5 クラス（順不同）

- [1] 「地方自治の法と政策」という授業科目の性格上、最新の法令の制定・判例、政策の動向などに関する情報をできるだけ、くわしく提供し、したこと、また、テキストなどに基づいて、わかりやすいレジュメ・参考資料を事前に準備して講義に臨んだことは、評価できるが、まだ学生の「地方自治の法と政策」にかかわる興味・関心を十分喚起し得てない点が反省して残る。
- [2] 授業内容のわかりやすさ。教科書を使い、著者の主張を理解するために、予習として、ワークシートへの回答を課した。参考書からの抜粋→参考図書を探して調査→グループ討論→レポート執筆という順序を踏むことで、一定水準のレポートを執筆させることができた。ただし本年度の課題、学生の関心がやや拡散してしまったことは、反省点にあげたい。
- [3] 書く機会が多いこと。
- [4] 実務を行う複数の教員による授業であり、学生にとって非常に興味深い内容であったと考えられる。
- [5] 本講義も回を重ね、毎年度新しい情報を取り入れているが、やや情報過多となってきたため、講義内容の再編が必要と感じている。

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：なし

C（設問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：14（82%） ②いいえ：3（18%） 未回答：0（0%）

設問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する：7（50%）
- ②読んで理解する：5（36%）
- ③自分の考えをまとめて話す：10（71%）
- ④自分の考えを文章にまとめる：10（71%）
- ⑤討論する：12（86%）
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする：9（64%）
- ⑦その他：2（14%）

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 5 クラス（順不同）

- [1] 少人数（4人程度）のグループにおいて、調査事項や自身の考え、疑問を気兼ねなく行うことで、コミュニケーション能力の育成を図った。
- [2] ビブリオバトルの採用。
- [3] 体験型の授業では、他の学生とのコミュニケーションを必要とすることもある。特にバリアフリーマップを作成する授業では、グループで行動し、考えレポートを作成する必要がある、コミュニケーション能力の育成に役立っていると考えられる。
- [4] 留学生とのディスカッションを行った。
- [5] 学部横断型の班編制によるプレゼンテーション

D（設問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：11（65%） ②いいえ：6（35%） 未回答：0（0%）

設問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①1～5回：10（91%） ②6～10回：0（0%） ③11～15回：1（9%）  
未回答：0（0%）

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

- ①歴史・文化：3（27%） ②政治・経済・産業：5（45%） ③自然環境・フィールド体験：3（27%）  
④その他：5（45%）

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 2 クラス

[1] 若年層の県間移動。

[2] 宮崎を起点とした、また本学も関わる国際協力活動について紹介し、国際協力を通じた途上国と地域の課題の解決例を示した。

設問 23 問 2 3～2 4 は中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。  
全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

- ①0%:2（12%） ②10%以内:0（0%） ③10%～20%:2（12%） ④21%～30%:1（6%）  
⑤31%～40%:2（12%） ⑥41%～50%:1（6%） ⑦51%～60%:4（24%） ⑧61%～70%:0（0%）  
⑨71%～80%:0（0%） ⑩81%～90%:0（0%） ⑪91%～100%:5（29%）

設問 24 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数回答可）。

- ① 少人数（10人程度）：4（27%） ② 双方向（対話・討論）：9（60%） ③ グループワーク：14（93%）  
④ フィールド型：3（20%） ⑤ メディア活用：5（33%） ⑥ TA 活用：1（7%）  
⑦ その他：1（7%）

設問 25 中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）。

- ① 授業を英語のみで行っている：0（0%）  
② 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：2（12%）  
③ 英語のみで板書している：0（0%）  
④ 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：5（29%）  
⑤ 英語のみの教材・資料を使用している：1（6%）  
⑥ 一部英語併記の教材・資料を使用している：1（6%）  
⑦ 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：0（0%）  
⑧ 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：0（0%）  
⑨ 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：0（0%）  
⑩ 学生間のディスカッションで一部英語を使用している：2（12%）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（設問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する数字を選んでください。

①あてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④あてはまらない

設問 1 シラバスに沿って授業を行えた。

①39 (61%) ②25 (39%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①40 (62%) ②22 (34%) ③1 (2%) ④1 (2%) 未回答 0 (0%)

設問 3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①32 (50%) ②29 (45%) ③2 (3%) ④1 (2%) 未回答 0 (0%)

設問 4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①41 (64%) ②21 (33%) ③2 (3%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①35 (55%) ②25 (39%) ③2 (3%) ④0 (0%) 未回答 2 (3%)

設問 6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①46 (72%) ②18 (28%) ③0 (0%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確認しながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①42 (66%) ②18 (28%) ③4 (6%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①27 (42%) ②28 (44%) ③8 (13%) ④1 (2%) 未回答 0 (0%)

設問 9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①35 (54%) ②28 (44%) ③1 (2%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

設問 10 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①32 (50%) ②31 (48%) ③1 (2%) ④0 (0%) 未回答 0 (0%)

B（設問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：6（9%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：50（78%）
- ③他大学の FD 活動の視察：10（16%）
- ④その他：13（20%）

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観：29（45%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加：51（80%）
- ③他大学の FD 活動の視察：14（22%）
- ④その他：11（17%）

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、回答： 22 クラス（順不同）

- [1] 学生との対話、ディスカッションを毎回行った。
- [2] 板書については可能な限り、丁寧に分かり易く書くように努めた。
- [3] 配布資料のアップデート
- [4] 講義内容をより具体的で分かり易くした。
- [5] 授業内容に関するより具体的な説明を心掛けた。前の授業のリアクションペーパーに対するコメントを頻繁に行うようにした。
- [6] 専門外の学生への考慮
- [7] 重要な点をわかりやすく示すようにした。
- [8] 明確にこの点を、というものは難しいが、これまでの授業や今年を受講生の様子に合わせて、随時工夫するように心がけた。
- [9] 受講者数が増えたため対面式授業ではグループワークを行うことができた
- [10] 文法事項や語彙、読解に関する進度を速めた。より興味を引く内容の文化紹介を心掛けた。
- [11] 学生にとって更に興味がある授業になるように努力した。
- [12] 期末課題の評価方法において、昨年度より細かい評価項目で分類した結果、多角的かつ精密に評価できるようにした。
- [13] 英語オンライン協同学習において、学習目標としての Can-Do リストを、海外の協力校と共同で作製、活動の目標として提示した。
- [14] TA 留学生とより会話ができる体制づくりを行った。
- [15] 内容はあまり変えていないが、授業の進むペースをもう少しゆっくりにして、レベルのちょっと低い学生もついていけるように行った。単語クイズの回数を増やして、クイズ自体を昨年度より若干難しく作成した。
- [16] 今年は特に学習意欲が低く、さらに将来の展望が描けない学生が多かった。そんな中でのディスカッションを中心とした授業は非常に困難を極めたが、根気強く接することによって、わずかではあるが、自分から考えてみようとする姿勢が学生に見られるようになった。

- [17] 期末テストと授業内容の連関を再確認し、授業内容がより反映されたテスト問題を作成した。
- [18] できるだけ、新しい話題を扱っている TEXT を使っています。
- [19] 専門英語の導入が狙いであることから、テキストの各ユニットのトピックについて関連のある学科生に背景知識を尋ねる、またインターネットで検索した工学・技術関連の情報（英語）を紹介し合うなど、エンジニアとしての英語学習であることを認識してもらうよう試みました。
- [20] 英語を学ぶ意欲をさらに駆り立てるため、米国で実践されているプロジェクト型学習の研修を受け、昨年度より充実した授業を設計することができた。特に、ムーンショットの概念を取り入れ、ユニークな提案をする方法をトレーニングすることで、発表内容が興味をそそるものとなり、「この人は何を考え付いたんだろう？」「どうやってこの考えを引き出したんだろう？」という相手の話に対する強い好奇心を引き出すことに成功した。
- [21] なるべく最新の科学技術に関する情報を扱うように努めた。
- [22] 技術英語に必要な数量表現を多く取り入れました。

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。 回答： 20 クラス（順不同）

- [1] 授業初回と最終回を比較すると、学生の主体性、論理だった発言に大きな成長が見られた。
- [2] 評価できる点は学期全体の学習の効果を高めるといふ他の科目ではおこなわれていない教育活動を取り入れていること。新しい試みなので毎回の授業では試行錯誤が続いた。
- [3] 毎回、授業開始の 8～10 分前に教室に入室して、授業開始のチャイムと同時に授業を開始した。このことは授業に対する教師の意気込みが学生に十分感じ取れたのではないかと思う。
- [4] 高校で「世界史 B」を履修していない学生に対して西欧古代・中世の話をするのは（時間がかかるし）難しい。
- [5] もう少しポイントを明確にするべきだった。
- [6] リアクションペーパーに学生が記載した質問事項には、比較的多くの時間を使い回答した。
- [7] フランス文学を通じて、今まで意識しなかった日本の社会や文化の特色に気付くよう促している点。
- [8] 現代ドイツの状況を伝えることで、受講者の世界観がいくらか広がっているような感触がある。
- [9] 単に座学の講義ではなく、いろいろ実際に教室で試したりして体験できるようにした点。
- [10] 各教員の専門の多様性ゆえに、学生たちの世界観を広げることができている。
- [11] 述べたいことを口頭のみではなく、なるべく板書で伝えるようにした。1つのものを2つの考え方により見るとき、黒板で考えやすい配置で見ることができるようにした。練習問題を授業中に解く時には、学生の場に降りて回り、個々の質問に答えられるようにした。
- [12] 定期試験では、農学部と工学部の得点差が大きく、平均点で 21 点、特に 2 年生では 27 点であった。農学部は受験者 25 名中 22 名が合格したが、工学部は 31 名中 11 名に過ぎなかった。この差は、例年よりやや大きかった。ノートをとることの重要性は、授業中に何度か述べたが、不合格の学生ではまだ不十分であると思われた。
- [13] 授業毎に、学習内容に応じ、学生にとって新鮮であろう内容の、学生間の交流を図るアクティビティを取り入れた。これにより、さりげなく学生の運動に対する動機づけを高めたであろうことは私の授業としては重要であったと考える。
- [14] 受講者のドイツ語・ドイツ文化への関心を高めることができた感触がある。
- [15] 私は学生が十分理解できるように授業をしたつもりである。しかし、学生が書いたアンケートには（理解しにくかったとはもちろん書いてないが、）学生はもっと理解しやすい授業を希望していることが書いてある。従って、今後は今回よりも更に学生が理解しやすいような授業をするように努力する。
- [16] 単に語学能力を高めるだけでなく、語学を通して総合的なコミュニケーション能力を養える授業内容。
- [17] リスニング課題を出していますが、授業中も提出する際に 10 分ほど内容確認をした方がもっと取り組みやすいのかと反省しています。

- [18] 学生のニーズ、問題点をより把握できる授業体制改善に努めた。
- [19] 勉強ができる＝やる気がある ではないことが分かった。丁寧に説明して、方向性を示し、時には厳しく接するなどして「自分」というものを見つめてもらえる機会をもっと提供していけると良いと思った。
- [20] グループワークの際、単にグループを作って終わりではなく、役割分担の方法などを説明し、それぞれの役割を全員が順番に経験するよう運営方法も指導した。グループワークは教員の目につかないところでトラブルが起こりやすく、グループワークを好む学生よりも嫌う学生の方が多いのが実情であるが、そのようなトラブルを最小限にとどめることができた。

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：なし

C（設問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：53（83%） ②いいえ：10（16%） 未回答：1（1%）

設問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する：44（83%）
- ②読んで理解する：36（68%）
- ③自分の考えをまとめて話す：21（40%）
- ④自分の考えを文章にまとめる：27（51%）
- ⑤討論する：14（26%）
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする：21（40%）
- ⑦その他：9（17%）

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 19 クラス（順不同）

- [1] リーディングアサイメント。教室内で直接の質疑応答。グループディスカッション。読みやすい日本語表現に関する練習問題。ライティング指導。レポート作成。レポートのピアレビュー。
- [2] 講義内容に関する具体的問題点を提起して、その問題に対し学生はどのように考え、どのように論理構成して、他者に分かり易く説明し理解させることができるか、という点を重視した。
- [3] 授業内では主に映画を観て、さらに課題として本をじっくり読み自分の考えを文章にまとめさせることで、より多角的に考えを深められるようにしている。
- [4] 授業内容にかかわるレポートや感想文の提出。
- [5] 講義の初回に計 42 ページのプリントを渡し、これを読んで理解の助けになるようにした。
- [6] スポーツ全般を通して、他学部とのコミュニケーションを図った。
- [7] 授業毎に必ず 2 人組以上になって行う運動・アクティビティを取り入れた。また、授業回によって、グループ毎にボードを用意し、そのボードの内容に従ってグループで話し合い、学習する場面を取り入れた。
- [8] 体育授業における学生を主体とした試合の運営



- [9] この授業はドイツ語の授業である。ドイツ語、そもそも言語はコミュニケーションの手段であるから、この授業でコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。コミュニケーションの4つの面、即ち聞くこと、話すこと、読むこと及び書くことの練習が毎回極めて重要であった。
- なお、「言語はコミュニケーションの手段である。」という考えには反対する言語学者もいるが、そのような論争にはこの場では言及しない。
- [10] グループ毎にフランス語で歌った音源に宮崎をPRする動画を制作する課題において、グループ内で企画、取材、演出、編集など、協力し合って一つのものを作り上げる過程を通じ、創造的なコミュニケーション能力を養えるようにしている。
- [11] フランス語で歌った音源に各自の地元をPRする映像を組み合わせた動画を制作する課題において、企画、取材、演出、編集など、協力し合って一つのものを作り上げる過程を通じ、創造的なコミュニケーション能力を養えるようにしている。
- [12] 海外との英語協同学習の一環で、台湾の英語クラスとビデオ通信を行った。
- [13] 15回の授業のうち、前半はOCEPを取り入れ、海外の学生とのメールでの意見交換をしています。
- [14] グループで自分の専門と関連するテーマを選び、それに対するアンケート調査を作成して行って、調査の結果をまとめた発表を行った。
- [15] 小グループを日替わりでメンバーを変えて形成。普段あまり話さない人とも、深い突っ込んだ内容を話せるような取り組みをした。
- [16] 海外との英語協同学習の一環で、インドネシアの英語クラスとビデオ通信を行った。また、香港大学の学生の来訪に合わせた、課題学習と英会話活動を行った。
- [17] 自分の考えを相手に伝えるだけでなく、相手の情報を引き出すための「質問力」の向上を目指し、グループ発表時は必ず質問をする場を設定しました。
- [18] 意図が確実に伝わる英語を目指すために、精度の高い英語を作るために翻訳者等が実施する方法を教えるようにしている。
- [19] プロジェクトを課題として研究していただき、結果はポスタプレゼンテーションを行った。また、オーラルプレゼンテーションも取り入れました。

D（設問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：25（39%） ②いいえ：35（55%） 未回答：4（6%）

**設問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。**

設問 20 その内容を授業に取り上げるおおよその回数を選んでください。

①1～5回：15（60%） ②6～10回：5（20%） ③11～15回：5（20%）

未回答：0（0%）

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化：16（64%） ②政治・経済・産業：15（60%） ③自然環境・フィールド体験：18（72%）

④その他：10（40%）

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 6 クラス

- [1] 宮崎大学医学部附属病院で診察業務を行う先生方がオムニバス講義を担当し、地域における中核病院の役割と各診療科ごとの具体的な診療内容、種々の病気の仕組みなどを医学部以外の学生に分かり易く講義している。
- [2] グループ毎にフランス語で歌った音源に、宮崎県と宮崎大学を PR する映像をつけた動画を制作することで、語学学習に地域理解を取り入れている。
- [3] フランス語で歌った音源に、宮崎を PR する映像をつけた動画を制作することで、語学学習に地域理解を取り入れている。
- [4] OCEP の授業で、日本の文化や、抱えている社会問題を紹介し足り、解決策を提案したりしています。
- [5] 学生が作成して行ったアンケート調査は自分の学部外の方を調査するため、「農学部外の人の農学に関する意識」をテーマとし、地域の方々の意識について学ぶことができたと思う
- [6] 第一回目の授業では、自己紹介で出身地などについて話すよう伝えていきます。

設問 23 問 2 3～2 4 は中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全 15 回の授業で 3 回取り入れた場合（1 回の授業における割合は問いません） → 20%

- ①0%:6 (9%)                      ②10%以内:7 (11%)    ③10%～20%:3 (5%)    ④21%～30%:1 (2%)
- ⑤31%～40%:3 (5%)    ⑥41%～50%:0 (0%)    ⑦51%～60%:6 (9%)    ⑧61%～70%:1 (2%)
- ⑨71%～80%:7 (11%)    ⑩81%～90%:7 (11%)    ⑪91%～100%:20 (31%)

設問 24 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください（複数回答可）。

- ① 少人数（10人程度）：19（33%）
- ② 双方向（対話・討論）：27（47%）
- ③ グループワーク：34（59%）
- ④ フィールド型：14（24%）
- ⑤ メディア活用：25（43%）
- ⑥ TA 活用：5（9%）
- ⑦ その他：16（28%）

設問 25 中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）。

- ① 授業を英語のみで行っている：2（3%）
- ② 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている：17（27%）
- ③ 英語のみで板書している：4（6%）
- ④ 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している：20（31%）
- ⑤ 英語のみの教材・資料を使用している：4（6%）
- ⑥ 一部英語併記の教材・資料を使用している：24（38%）
- ⑦ 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している：12（19%）
- ⑧ 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している：9（14%）
- ⑨ 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している：16（25%）
- ⑩ 学生間のディスカッションで一部英語を使用している：9（14%）